

芸術作品と場所性に関する研究 (事例研究をととして)

日大生産工(院)〇坪 洗紀 日大生産工 田中 遵
日大生産工 日高 單也

1. はじめに

日本は戦後 60 年間に、景観整備・文化政策として、パブリックアートと呼称される彫刻やモニュメント群の設置事業を行ってきた。しかし近年、都市や地方に設置される芸術作品と、私達人間との関わり方に変化がみられる。今までは、提供されるものを観覧するという視覚により情報を得ていたのだが、直接手で触れる、芸術作品に寄り掛かるなどの積極的な行為ができるようになった。これは、芸術作品を設置するうえで必要な台座を無くし、囲いなどを取り除く事により、鑑賞者との距離をより身近にしている為である。この行為は、景観整備・文化政策という名目により、その土地の地域特性や歴史的背景に触れられることなく設置されてきた作品とは違い、装飾的な要素だけではない、鑑賞者との新しい関係性ではないだろうか。

そこで、今まで繰り返されてきた芸術作品の設置事業を改めるため、又これから景観形成事業が鑑賞者とのより良い環境を築くために、芸術作品・設置場所・鑑賞者の関わり方を調査し、その作品と私たちの距離を変えようとしているモノを明らかにする必要がある。

2. 歴史的背景

日本における「芸術作品の設置事業」の始まりは、木村重信氏の「パブリック・アートの現在」によると、1961 年 7 月に山口県宇部市常盤公園で開催された第 1 回宇部市野外彫刻展である。¹⁾その後 1973 年頃から「彫刻のある町づくり」が「文化の時代」や「地方の時代」と関連

して、各地でおこなわれるようになる。

1980 年代後半から 1990 年代後半にかけ野外彫刻展や、彫刻シンポジウム、彫刻のあるまちづくり事業が増加し、1989 年～1994 年新宿アイランドアート計画、1989 年ファーレ立川と行われ、再開発に伴う設置事業が増加する。

近年では、2002 年に六本木ヒルズにおけるアーテリジェントシティ、2000・2003・2006 年大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレなど、都市や地方と様々な場所に芸術作品の設置が行われている。

大地の芸術祭は、1994 年 9 月に十日町地域が、新潟県が提唱する「ニューにいがた里創プラン」の地域指定を受け、1996 年 3 月に「越後妻有アートネックレス設備構想」を樹立した事から始まる。²⁾このプランは、新潟県に 14 ある広域行政圏のそれぞれが独自の価値発信に基づく地域づくりに取り組もうとしたもので、行政・民間・地域外の協力者の緊密な協働のもとに進められてきた。その後、1999 年 3 月「越後妻有大地の芸術祭」シンポジウム（東京代官山ヒルサイドプラザにて開催）などを経て、3 年に一度行われる三年大祭「2000・2003・2006 年大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ」の開催へとつながる。

2006 年に開催された大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレは、会場を新潟県十日町市(2005 年 4 月に旧十日町市・川西町・中里村・松代町・松之山町が合併)、津南町の 2 市町 760 km²とし、会期を 7 月 23 日から 9 月 10 日の 50 日間として行われた。³⁾

3. 研究の位置づけ

3 -1.用語の定義

現在、公共空間に設置されている芸術作品に対して、パブリックアートという単語が使用される機会が増えた。しかし本稿では、パブリックアートと呼称せず、「地域振興のための芸術作品」（以下、地域振興芸術作品）という呼び方を使用する。又、この「地域振興芸術作品」は本稿に限り、大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ 2006（以下、大地の芸術祭）で設置されている 318 作品を指す。

「場所性」という単語については、地域振興芸術作品が設置された土地を位置とした空間を場所とし、その場所の性質を表す。これは、作品が設置されている場所が、公共空間という枠ではなくる事のできない様々な土地に設置されているという点、又、美術館などの施設に展示されている芸術作品との差異は「場所性」によることから、この単語を使用する。

3 -2. 調査方法

調査対象として、大地の芸術祭で実際に設置された作品、又、2000・2003 年に設置され現在も鑑賞ができる作品とする。この大地の芸術祭

では、329 作品が登録されているが、本稿では現地調査を行った結果を基として資料を作成している点、又、芸術作品・設置場所・鑑賞者の関わり方を調査する点により、イベントのみの 11 作品は固定物が存在しないため、除外した 318 作品で調査を行う。

4. 集計・分析方法

大地の芸術祭で設置されている 318 作品を、表 1 でみられるように制作年代・設置場所・作品性質の 3 項目により分類する。又、分類した資料を基に集計を行い、設置場所分類レーダー図、作品性質円グラフ図を、地域振興芸術作品全体、制作年代で分析する。

4 -1. 制作年代

制作年代は、地域振興芸術作品が制作された年代を、2000・2003・2006 年ごとに分類し集計を行う。継続されている作品は、制作された年代を、又、同じ作品番号で年代ごとに作品がある場合は、もっとも新しい年代を採用する。

4 -2. 設置場所

設置場所は、地域振興芸術作品が設置されている土地の形状を指し、大きく分けて自然物・人工物の 2 種類をあげる。自然物の項目には、

表 1. 地域振興芸術作品分類表（一部）

				設置場所													作品性質			
				自然物																
作品番号	作品名	作家名	制作年代	山	森	草地	川	池	田	施設	学校	公園	空屋	道路	空地	その他	サイン	展示	利用	体験
十日町	1 妻有広域のサイン	ジョゼ・デジマランイス	2003															○		○
	2 バタフライバリオ	ドミニク・ペロー	2006										○							○
	3 小さな家 - 聞き忘れないように -	伊藤喜朗	2000																	○
	4 石の魚たち	荻野弘一	2000										○							○
	5 田園の中の異国 ing (OUTLAND)	芹川智一	2006				○													○
	6 テラ - 青い花プロジェクト	矢島路絵	2006	○																○
	7 ねこつくら、暗い穴 (平) 総糸・雪絵 (二子)	手塚愛子	2006				○													○
川西	96 アース・ライス - 大地の米 -	塩澤徳子	2006						○											○
	97 この大地と空の間	西野康造	2000																	○
	98 里山交響曲/みんなおなじ地球の子	三木俊治	2006				○													○
	99 境界の神話	内田繁	2006														○			○
	100 パッセージ	足高寛美	2006												○					○
	101 TMR 妻有空港 計画～田んぼのエアポート	朝岡あかね	2006							○										○
	102 祈りの船	鈴木淳子+沖啓介	2006																	○
津南	152 記憶・記録・足湯の人びと	霜島健二	2006				○													○
	153 海/彼岸の家	原すがね	2006												○					○
	154 ポップアップ・プロジェクト・足湯バージョン	池田光宏	2006																	○
	155 かささぎたちの家	金丸謙 (キム・クー・ハン)	2003				○													○
	156 演習	クイビーン・オフラハラ	2006							○										○
	157 ツマリカモ	鈴木明+藤山哲郎+神戸芸術工科大学大学院	2006								○									○
	158 ドラゴン現代美術館	頼園強 (ツァイ・グオチャン)	2000										○							○
中里	170 小出の家	井出創太郎+高沢利也	2006																	○
	171 中里かかし庭	クリス・マシューズ	2000								○									○
	172 大地のグルグル	芝裕子	2006								○									○
	173 空の水 -V-	青木野枝	2006										○							○
	174 農屋の木もれ陽プロジェクト	木村宗人	2006																	○
	175 森とつながる	出月秀明	2006																	○
	176 たぐさんの失われた窓のために	内海昭子	2006										○							○
松代	201 くじら屋敷の美術館	中村敬	2006																	○
	202 徹明劇場・倉・地平の鏡	中瀬康志	2003																	○
	203 農なし (イベントのみ)	文楽座・吉田勘緑	2006																	○
	204 ふなが池植物公園「マザーツリー空中庭園」	保科豊巳	2003										○							○
	205 明後日新聞社文化事業部・一昨日テレビ局広報宣伝部	日比野克彦	2003																	○
	206 ライフ・ワーク+みどりの部屋プロジェクト	酒百安一	2006												○					○
	207 田野倉環境感知器	石松文佳	2006														○			○
松之山	294 ステップ イン ブラン	ジャン・クルズリング (テキストデザイン 浅蔵克己)	2003																	○
	295 ラトビアから遠い日本へ	アイガルス・ビクシェ	2006																	○
	296 名前蔵	リンダ・コヴィット	2003											○						○
	297 悠久なる恵み・松之山の野草の花々とブナ林・	木村豊彦+松之山の山人々	2003				○													○
	298 越後松之山「森の学校」キヨロロ	手塚貴晴+由比	2003				○													○
	299 キヨロロの Tin・Kin・Pin・音の泉	庄野幸子	2003																	○
	300 大地・水・宇宙	遠坂卓郎	2003																	○

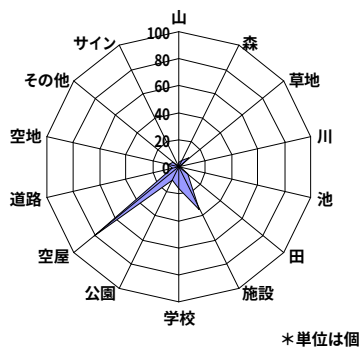


図 1. 2006 年設置場所分類レーダー図

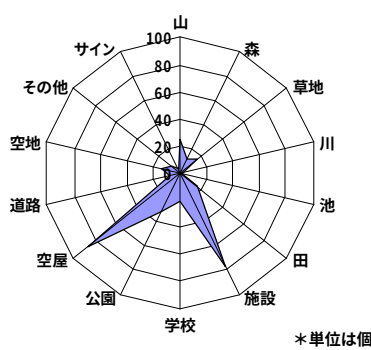


図 2. 設置場所分類レーダー図

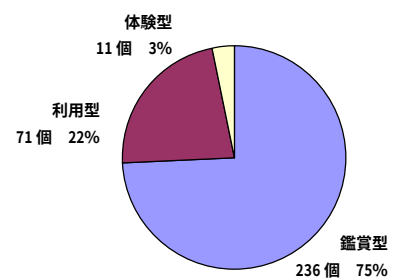


図 3. 作品性質円グラフ図

山・森・草地・川・池・田の 6 種類、人工物は、施設・学校・公園・空家・道路・空地・その他・サインの 8 種類に細かく分類し、レーダー図を作成する。又、例えば、設置されている地域振興芸術作品が森の中にあるのだが、土地の形状をみると山である場合、その作品が設置されている環境を位置として判断する。この場合、森の項目に集計される。

4 -3. 作品性質

地域振興芸術作品の鑑賞体系を、鑑賞型・利用型・体験型の 3 種類に分類し、円グラフ図を作成する。この 3 つの分類は、地域振興芸術作品が持っている性質を現し、鑑賞者との関わり方を明らかにする。鑑賞型は、視覚による観覧で、作品との一般的な関係を指し、利用型は、その作品を使用することによって情報を感じる鑑賞方法である。又、体験型は、作品を身体により感じる鑑賞方法で、ワークショップ・祭りなどもこの項目に含まれる。

5. 結果・考察

地域振興芸術作品分類表（表 1 参照）の集計結果を基に、制作年代・設置場所・作品性質について特徴を述べ、考察を行う。

5 -1. 作成年代

2006 年に設置された地域振興芸術作品は、318 作品中の 191 作品と全体の半数を超えている。その中でも、図 1、2006 年設置場所分類レーダー図にみられるように、空家に設置された 81 作品は他の項目より多い。又、他の年代で空家に設置された作品数は、2000 年 68 作品中 1 作品、2003 年 59 作品中 4 作品と、2006 年に設

置された 81 作品との差は明確である。このことから、2006 年の大地の芸術祭の特徴は、空家に地域振興芸術作品が設置されている事だと考えられる。

5 -2. 設置場所

大地の芸術祭で設置されている 318 作品の中で、図 2、作品場所分類レーダー図にみられるように、空家 86 作品、施設 76 作品と 2 種類の設置場所に作品数が集中している。空家とは、新潟県越後妻有地域に点在する 200 近くある集落の中で使用されていない民家を、地域振興芸術作品の設置場所としている事を指す。⁸ 里山という風土色のある地域において、民家という景観の一部を壊すのではなく、地域振興芸術作品を設置し利用していくという行為は、その土地を守り、次の世代に残すということが考えられる。又、施設に設置された 76 作品の中で、2003 年大地の芸術祭で情報・文化・教育の交流拠点として制作された、越後妻有交流館「キナーレ」、まつだい雪国農耕文化村センター「農舞台」、越後松之山「森の学校」キョロロに設置された地域振興芸術作品が 41 作品と半数を占め、新潟県越後妻有地域の交流拠点が多くの鑑賞者に利用されている事が伺える。

以上この 2 つの事象から、鑑賞者に対して、空家という設置場所から新潟県越後妻有地域の自然環境を、施設という設置場所から情報・文化・教育の交流を伝えていると考える事ができる。これは、その土地の地域特性や歴史的背景に触れられることなく設置されてきた作品とは違い、その設置物と設置地の関係に場所性があると言える。

5 -3. 作品性質

鑑賞型・利用型・体験型の3つの鑑賞体系により集計された結果、図3、作品性質円グラフ図に見られるように鑑賞型75%、利用型22%、体験型3%となった。作品との一般的な関係をさしている鑑賞型は、75%と半数を占めたが、作品の性質として他の項目が4分の1をしめる25%という数字は、地域振興芸術作品の中でも特徴として考える事ができる。

この4分の1の大多数を占める利用型という鑑賞体系は、地域振興芸術作品を使用することによって情報を感じる鑑賞方法であり、触る・座るなどといった行為から、新潟県越後妻有地域の自然環境にふれてもらう、鑑賞者との身近な関係性でもある。この事から大地の芸術祭では、一般的な視覚による観覧だけではなく、その土地、その風土色にふれてもらうために、地域振興芸術作品と鑑賞者の距離を新しい関係で築いているといえる。

5 -4. 全体考察

この大地の芸術祭と他の芸術作品設置事業の違いは、その設置されている場所性である事が明らかになった。しかし、ただ新潟県越後妻有地域の自然環境である里山を守っているのではなく、鑑賞者に対して積極的にその情報を伝えようとする姿勢がみられる。

以上の事により大地の芸術祭では、芸術作品と設置場所から、その土地の自然環境を発信し、鑑賞者との距離を縮めることで情報を受信してもらうという独特な関係性を生んでいる事が解った。

6. まとめ

大地の芸術祭では、鑑賞者と芸術作品との距離を縮め、その土地の場所性を考えた計画がなされていると、本稿では明らかにすることができた。現在行われているパブリックアートと呼称されている芸術作品の設置事情の中にも、このような場所性を考慮した作品は多く存在する。その1つとして、有楽町国際フォーラムに設置されている安田侃の「ISHINKI 意心帰」を挙げたい。彼は、講演会（まち・人・アート

/空間の支点「彫刻」安田侃の世界、丸の内 MY PLAZA、2006.6.6）の中で国際フォーラムの関係者に「作品の上に乗る人がいても止めないでほしい」と語っている。これは、オフィスビル郡の有楽町丸ノ内地区を、「ISHINKI 意心帰」のような丸みのある作品で緊張感を和らげようとしていると考える事ができる。その作品に触れること、乗ることは彼の主旨であり、又、希望でもある。

私達が普段よく目にする作品は、作品に台座があったり、囲いがあったりと、どこか近づきたい雰囲気を出している。本稿で調査したように、街の中に利用できる作品が多く存在すれば、芸術作品・設置場所・鑑賞者の関係性も、より良いものへと築いていくことが可能であると考ええる。



図4. 安田侃、作品題名「ISHINKI 意心帰」、有楽町国際フォーラム

参考文献

- 1) 木村重信、「パブリック・アートの現在」、宇部市役所 HP
<http://www.city.ube.yamaguchi.jp/choukoku/text/ex19-01.htm>
- 2) 越後妻有大地の芸術祭実行委員会、「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2000 ガイドブック」、2000、pp,6-30
- 3) 美術手帳 7月号増刊、「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2006 ガイドブック」、美術出版社、2006、p,6